

「変化」⇒「楽しい」⇒「創発進化」

1. 弟の一言で生まれた「社宅化」

右掲は、母の家の平面図です。実は、3月12日に母が95才で他界して、実家を相続する事になったのです。築55年ほどの古い民家です。2階建てで私たちが高校から大学そして社会人の初期を暮らした思い出のある家ですが、何せ古いのでリフォームが必要なのです。弟がお通夜の時に三男に住んだら良いと声をかけてくれたのです。それまでは、借地なので解体する事を念頭においていたのですが、長年の借地なので地代も比較的安いので、リフォームも視野に入れたのです。

解体の見積もりを見ると約500万円と思った以上に高額なのです。理由を聞くと隣の壁を補修する必要があるが、隣家が築年齢が古いので壁の基礎から行う必要があるので高額になっているとの事でした。そこで、1階だけを今風にリフォームして社宅的に使おうとなったのです。弟も地主にも事情を話して了解を得て私が相続してリフォームを行っているのです。

リフォームを決めると夢が湧いてくるのです。中央の6畳間は現状畳なのですがフローリングや麻の畳という案が浮かんで来るのです。洗濯機のコーナーでは、リンナイの乾太くんという乾燥機を入れてみたいとアイデアが浮かんでくるのです。収納や外壁と次から次へと夢が膨らむのです。当然、予算も膨らんで行くので限度内に抑える為に現実との妥協が始まるのです。それでも、社宅と言っても、まず、三男が入居するので空間の質を維持したいので手持ち金+リフォームローンでカバーするかという思いとの葛藤があるのです。これって、意外に楽しいのです。楽しいから次から次へと夢が湧くのです。

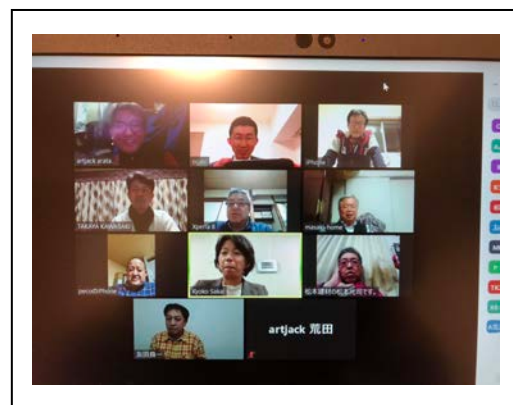


2. ZOOMで変わる異業種交流会

右掲は所属している中小企業家同友会阿倍野住吉支部の幹事会をZOOMを使って行ったスナップです。新型コロナウイルスで異常事態宣言が出て集会が出来なくなって、急遽、ZOOMで幹事会を開くことになったのです。11名が参加して約1時間半ビデオ会議を楽しみました。午後7時からなので自宅組と事務所組の2つに分れましたが、コミュニケーションを楽しめました。移動時間がないのは有難いのですが、幹事会の後の懇親会を楽しみにしている方には少し物足りなさを感じるものでした。

691号で「元の世界には戻らない」という羽根田商会の佐藤社長の警鐘をご紹介しますが、ZOOMを活用して要件が済ませるので幹事会や各委員会に適していると思われます。小グループ(小G)活動があり、新規会員を会社訪問する活動がありますが、「3密」に抵触するのでZOOMで行うのも一案となりました。小Gの場合、会員の本音を引き出して課題を明確化するという事がメインなので、当初の15分程度は経営状態を話すのでZOOMで画面に向かって話しかける事になります。この15分間をうまく展開できるか否かが小Gの成否になります。対面していない、そして、寛いだ状態では難しいかと危惧しています。さらに、質問する段では、誰かがコントロールしないと発言者が偏る可能性もあるのです。

しかし、確実にZOOMを活用する方向になりそうです。集まる為に会場を用意していた委員会などは、LINEなどで時間を決めてIDとパスワードを送るだけで出来る手軽さがあり、誰かが画面共有にしてワードなどを使えば議事録も同時に作成できるのです。まさに運用次第という形です。最大の課題は、中小企業家同友会の伝統として行ってきた例会報告です。月に1度、会場を借りて行っていたのですが、この事前準備にリハーサルがあります。これは、ZOOMで行えると思いますが、本番の会場での例会です。他支部からも来るオープン環境なので、これをZOOM化は難しいと懸念しています。

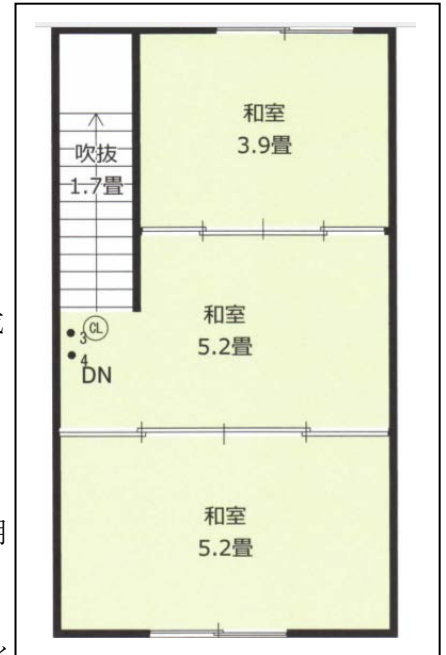


3. 気軽に「変化」

1項では、弟の一言から母の家を解体するのではなくリフォームして社宅化する「夢」が生まれました。この「夢」は、まずは1階をリフォームしていますが、これは予算の関係なのです。できれば、右掲の2階を2部屋に仕切って2人の個室をつくり、1階を共有スペースにする発展形の「夢」が残っています。

2項のZOOMでは、お客様との打ち合わせに活用する事が課題になります。今は、LINEを使って会話レスで状況確認などを行っています。確かに、要点を絞っているなので効率が良いのです。また、Fax原稿や資料作成なども画面共有で打ち合わせが出来るので時間短縮になります。課題は、紙の資料を入手する方法ですが、郵送や宅配もあればPDF化してメールで送信する事も可能です。メールなら即座に入手できるので、さらに時短になるのです。

このように、「変化」を始めるとドンドン応用形が生まれるのです。この応用形の中から次の「変化」が生まれ、次々と創発進化が始まるのです。つまり、1項の「社宅化」という発想から進化し、ZOOMからコンサルやシステム開発の進め方まで変わって行くのです。それらは、練りに練った案ではなく、お金も大してかからない事で気軽に一步を踏み出す事で始まっているのです。「夢」という事ですが、私は「人」+「夢」=「儂」と言って来ましたが、この「夢」は着実に展開できるものです。リフォーム代金はポケット・マネーという金額ではないですが、元々は解体を考えていたのでその予算内で行えるものですし、ZOOMなどは無料で利用できる物です。相手さえ同意すれば、双方にメリットがあるので、本当に、気軽に出来るものです。



4. 「楽しい」⇒「創発進化」

弊社は2001年に名古屋営業所を開設した事がありました。当時はISDN回線を使うものでTV会議というソフトを月極で借りて行っていました。回線速度が64kbps程度だったので音声がブツブツと途切れて会話にならない状況でした。結局、電話で会議するという事でしたが、それから20年近くになって無料で、しかも多人数で画面共有しながらTV会議できる時代になったのです。トヨタ改善の格言の中に「慌て者の失敗」というのがありますが、20年前では慌て過ぎたのです。「新物喰いの失敗」という言葉は無いようですが、「新物」が好きな人は高い代償を支払うことが多いのです。「新物」に衝撃的な魅力があるのですが、使う方の能力が及ばないで不十分な結果になるケースが多いのです。

私は、満70才になりましたが、小学生の頃に読んだマンガが描く未来図にあこがれていました。就職はコンピュータを条件にトヨタ系販売店に入社して、移動する能力を具現するクルマのビジネスでコンピュータのソフト開発を通してトヨタ・イズムを学ぶことが出来たのです。さらに、理解のある社長に恵まれて他社のソフト開発も行い日本生命の百周年記念事業のオフコンを各営業所に設置してホスト・コンピュータに要求処理をする通信システムの開発経験、ある冷凍機メーカーの生産管理システムのMRP処理の時間短縮や今お客様になっている会社のパケット通信料の削減などユーザーでは経験できない事にチャレンジできました。この経験が「一生折れない自信」となっているのです。

普通なら未体験の事で躊躇するのですが、「新物喰い」だったのでリスクを考えずに「楽しい」だけでチャレンジしたのです。これからの時代は、「新物」も手の届く範囲になるスピードが速いのです。特に、IT関連はプラットフォーム・ビジネスで「新物」をほぼ無料で提供するケースが多いのです。「新物」の魅力をチャレンジする事で「楽しい」となり、それがドンドン進化して「創発進化」となって新しい世界を切り拓くのです。「新物」を「楽しい」と感じる事が第一ステップであり、それを道具として活用できるようになれば、自分の進化に大きな武器になり、若い人には「新物」を楽しみ感じてビジネスする事を期待します。